2 両側鼠径部及び心窩部違和感を伴う排尿障害に漢方治療で難渋している１例

旭川医科大学　腎泌尿器外科
堀　淳一

症例は74歳女性。元々慢性膀胱炎の診断で、他院にて猪苓湯及び清心蓮子飲を長期処方されていた。2017年に尿意切迫感を主訴に当科初診。問診では、排尿症状以外に、ガムが胃壁にはりついた感じ、咽頭違和感、心窩部不快感、下腹部正中創（帝王切開創の両脇の違和感といった訴えがあった。腹診では胸脇苦満はなく検尿所見にも異常なしであった。過活動膀胱と診断してミラベグロンを処方した。また、同時に上部消化管内視鏡検査も施行したが異常所見を認めなかった。1ヶ月後再診の時から清心蓮子飲を中止して半夏厚朴湯を処方したところ、咽頭違和感や心窩部不快感といった症状がいったん改善したが、改善と再燃とを繰り返す状態がその後しばらく続いた。また尿意切迫感は改善したものの排尿時に尿道がしみる感じがあるとの訴えが新たに出現した。診察上外尿道口には異常所見はなく、再度行った腹診では胸脇苦満あり、柴胡剤を使用したところ胸脇苦満は消失し、下肢のだるさや陰部～肛門にかけての疼痛も改善した。しばらく安定していたところで、数か月後に今度は心窩部に煙突が刺さっていてそこが暗闇の感じがするとの訴えがあった。半夏瀉心湯を使用するも改善なく、その後寒冷刺激で症状の悪化があるとのことで当帰四逆加呉茱萸生姜湯→六君子湯→半夏厚朴湯で最終的に落ち着いた。その後は胃の調子、季肋部違和感、下腹部違和感どれも完全ではないものの以前より格段に良いと仰っておられる。